

1. 懇談会参加者の発言内容

(1) 出席依頼した参加者（10名）、および市民の会役員（2名）からの意見

A氏： 市議会委員会で上杉議員が「民間のカネを使ってでも跡地に何かを作るべき」と発言したが、いま民間にそんな力はない。跡地での新たな建設は資金的に困難であり、当面は駐車場として利用すべき。また、第二庁舎は解体せずに民間に売却したほうが、解体費が不要となる上に固定資産税が入る。第二庁舎は本庁舎よりも耐震化が容易であり、購入側が必要と判断すれば購入後に耐震化を実施すればよい。

B氏： 「二核二軸」構想を市自らが壊しておいて、いまさら市が何らかの案を作れるはずもない。今求められているのは「持続可能な社会－SDGs」であり、県内では既に智頭町と日南町が既にSDGs自治体として認定されている。鳥取市全体をどういう方向に持っていくかをまず考えるべきだ。

今日の配布資料にもあるように、国から市へ支給される地方交付税は年々減り続けており、（国が地方交付税の中に含めて支給すると言いつけてきた）合併特例債と臨時財政対策債という名の市の借金の年々増えていく返済分を地方交付税から差し引くと、今後、市が自由に使えるカネがさらに急速に減っていくことは確実だ。

提案だが、跡地に市営住宅を建てることを検討してはどうか。コンパクト化推進と言いつながら、市の市営住宅の大半が現在は郊外にあり老朽化が進んでいる。

C氏： 合併特例債の発行枠は既にほぼ使い果たした。跡地活用委員会の民間委員の選考方法を見ても、今の市長は独断専行の前市長の手法を踏襲しているに過ぎない。鳥取の人間はおとなしいから好きなようにやられてしまう。パブリックコメントで若い人を集めて意見を出してもらいたい。

D氏： 今の市政にはビジョンがない。県ともよく話し合っていない。市と県が合同で施策を実施すれば無駄が省ける。

合併町村の過疎化対策には交通インフラの提供が必要。市外からの主要道路の接続部に大きなモータープールを作って、そこからくるりバスを市内全体に巡らせる。くるりバスを皆の足にする。

若桜街道のアーケードをなぜ県庁まで伸ばさないのか。高知市や高山市のように街中を市場に

する。支所単位でやっているイベントを共通化して、市内の他地域の人を呼び込む。

現状では市民の自主活動の拠点となる事務所が足りない。本庁舎も第二庁舎も残して活動の拠点とすべきだ。

E氏： 跡地の利用方法を考えるためには、まず街全体をどうするかを考えなければならない。今までの活動で誰でも来ることができる広場は作ってきた。イベントもやった。しかし、そこで何かをやる人は育ててはこなかった。「やる気のある若い人」が集まれる仕組みを作るべきだ。

F氏： 一昨年に要望があった市立美術館の設置の件について。その時には「何が目的で設置するのか」という点や財源については全くあいまいであった。

行政は、市庁舎新築移転問題で既に見たように、いったんやると決めたら絶対に譲らない。跡地問題に関するシンポジウムをやるのであれば、拙速をさけて慎重に時間をかけて進めるべきだ。くるりバスの路線変更の問題では、富桑地区の住民の要望が早くからあったにも関わらず、実現には7~8年もかかった。

G氏： 前市長時代のトラウマがあり今の市執行部は委縮している。跡地活用問題については、現在の市の組織と財政から見て、実現までには長い年数がかかるだろう。新庁舎実現までには構想から約20年がかかっている。

市議会の跡地調査特別委は、市議会側からは具体的な提案はしないという姿勢をとっている。また跡地活用については、新たに市企画部が担当部署となった。

商工会議所は、従来は市の案を待ってからコメントする姿勢だったが、藤縄会頭になってからは自ら要望を出すようになった。今後の課題は、行政にどのようなアプローチで要望を出していくかという点だろう。

H氏： 過疎の問題を何とかしたい。用瀬でコメ、梅、大豆を無農薬で作っている。最近「道の駅きらり」での味噌づくりコンテストに参加した。街中で市場を開くのはいいアイデアだと思う。交流人口を増やして、地元産の食材を食べることで中山間地の支援をしてもらいたい。若桜街道の道路沿いを利用して市場を開いてはどうか。

I氏： 若桜・智頭街道の以前のにぎわいを取り戻すのは無理だと思うが、中心市街地の衰退はなんとか止めたい。市執行部や市議会の現職議員との連携を作るべきではないか。具体的なプランを出し合って現実化しなければならない。意欲ある店を若桜街道に集めるとか、智頭街道を全面芝生化するとか、衰退を食い止めるためには暴論・異論が必要だ。

J氏： くるりバスを美萩野まで回してもらいたい。料金の安い美術作品の展示場がなく、最近では会場を数日借りると数万円の費用がかかる。新市庁舎の見学会を開いてはどうか、あそこには空室がたくさんあるのではないか。無料の駐車場も足りない。

K氏： ここに集まっている人の大半が高齢者だが、もっと若い人の意見を聞くべきだと思う。サンロードで定期的に市を開いているが、十年たつてやっと三十店くらいまで増えた。今後も続けていくためには、持続可能な体制が必要。何かハコモノが必要というよりも、駐車場やトイレ付きの広場が必要だと思う。

L氏： 皆さんの意見はそれぞれによいと感じた。市庁舎が移転してからは、若桜街道も智頭街道と同様に人通りが消えひどい状況となった。五臓圓ビルを改修して来年で十年になる。改修費は約八千万円かかったが、当時は市もかなり応援してくれた。川端のエスマートをやめたら買い物に行くところがなくなってしまう。対策を進めていくうえで、やはり現職の議員は必要だと思う。

(2) 当日参加者も含めた議論 (これ以降は、当日傍聴に訪れた参加者も議論に参加)

M氏： どうやって人を集めるかが一番の問題。集める仕掛けづくりが必要。旧袋川から北の地区を何とか活性化することで「鳥取らしさ」が出るのではないか。「元気な老人が集う街」ができないか。

今の親は子供のために学校参観など多くの時間を割いている。子供が集まり安心して育てられる街、老人が安心できる街が必要。郊外の大型店は広すぎて、年寄りには店の中を見て回るだけでも大変。この旧袋川以北地区の将来ビジョンをつくれれば、跡地問題にも展望が出てくるのではないだろうか。外から鳥取に来る人にも、この地区でなら鳥取の良さを発見しやすいと思う。

B氏： 緑ヶ丘と卯垣などに新駅を作ってはどうか、居住人口が増えれば商売も増えるはずだ。飲んだ後どうやって帰るのか、今のままでは弥生町がさびれるのも当然。バスの発着点を駅ではなく市民病院に移してはどうか。

A氏： 若葉台に新駅をつくる話もあったと聞かす。

N氏： 環境大をつくる時に要望があったが、JRが全然取り合ってくれなかった。

O氏： 人が集まる場が絶対に必要。鳥大の村上先生によれば、賑わいに触れることで認知症予防にも効果があるとのこと。

D氏： 人口が少ないことが一番の問題。「子供と年寄りにやさしい街」をPRしないと人は来ない。鳥取はよそに比べれば老人施設の入居費用が安い。有機農業振興や空き家活用も図るべき。

P氏： SNSで情報発信していく必要がある。交通インフラについては、自分の家の周りではバス停が撤去されてしまい、自宅から2kmも歩かなければバスに乗れない。くるりバス以前の問題。地域の人にタクシー代わりになってもらうのも困難。個人や地域で解決できる問題ではなく、県や市と直接交渉して解決すべき。

F氏： 鳥取市ではパブリックコメント制度は既に形骸化しており、(市民が何を言おうと)行政は既に最初から方針を決めているのが実態。市庁舎新築移転問題の時のように、中学校区単位で説明会を開かせればよい。現職の議員は地域に呼びつけばよい。

(3) 懇談会終了時の当会共同代表からのコメント

浦木： 街づくりのビジョンが一番大事。若い人の意見を聞くべき。

八村： 人口がどんどん減っていることが一番の問題。具体的な対策に取り組む必要がある。

谷口： 既成概念にとらわれない、(街づくりのための)専門家の知恵を集めたプロジェクトチームをつくるべき。

／以上